

と連携

間の需要開拓へ

股份有限公司(KWE台湾)では海上輸出入フォワーダーを入れている。航空での半導体や液晶パネルといったリテールやアパレル関連など海上貨物でも取り扱い品目。事業では、桃園空港近郊に自社倉庫を運営しているも、口亨董事総経理は「ECFA(兩岸経済協力枠組協定)の動きが目立っている。中国法人との連携などを通じている。

わせて大規模な需要が立ち上がる。こうした需要があるため、航空輸送に対するニーズは根強いだろう」と指摘。一方で、海上輸送へのシフトも強まっているため、リテールやアパレルなど新たな分野で顧客層の開拓を急ぐ。自転車やゴルフ関連などのスポーツ用品、

現在、桃園空港近くに5000坪の倉庫を運営。フル稼働状態が続いており、一部貨物は外部委託で取り扱っている状態だ。このため、来年末までに新たな統合拠点を近隣に確保する計画。田口董事総経理は「需要は非常に強い。スペースを用意し、適切な提案を実施す

欧米系ブランドのファストファッションなどさまざまな需要が見込めるといふ。台中間の物量取り込みも重点課題の一つ。ECFAを機に、工作機械メーカーなどが土地に余裕のある台湾南部に進出し、完成品やコア商材を生産して中国へ出荷するといった動きが活



平野ロジスティクス タイ航空のPR車制作 昼間の宣伝効果狙う

平野ロジスティクスはこのほど、タイ国際航空をPRする看板トラックの2台目(2トントラック) = 写真 = を制作した。1台目のPR車は大型車(10トントラック)であるため、走行ルートが高速道路、運行時間は夜間となる。今回は昼間に都内を走る2トントラックを看板トラックとすることによる宣伝効果を狙っている。

きょうの紙面

関空会社・竹内副社長会見
「成長の基盤を確立」
2面
マースクライン
1~3月期、5.9億ドルの赤字
レオパズジャパン
関空一大連便で航空輸
4面
4月のUIC
件数8%増、重量35%増

関西発貨物便 週5便に増便

キャセイ航空

キャセイパシフィック航空(CPA)は18日から、関西-香港線フレーター路線を現在の週4便(火・水・木・土曜)から週5便に増便する。関西国際空港会社が17日発表した。金曜便を追加する。現在の週4便は仁川経由で香港に帰港しているが、増便分の金曜便は香港への直行便となる。機材はすべてB747-400F(最大搭載容量約110トン)。

関西線の増便は運航路線の見直しの一環。同社は燃油価格の高騰と市場の落ち込みにより、路線の見直しを行っている。以前の発表によると、長距離路線は供給を絞り込み、短距離路線の運航頻度を引き上げるとしていた。

運航スケジュールは次のとおり。

CX036 / 035便 (金曜※増便分) 香港発13時10分、関西着17時45分、同発20時25分、香港着23時20分
CX036 / 035便 (火・水・木・土曜) 香港発11時10分、関西着15時45分、同発18時30分、香港着+0時35分(すべて仁川経由)。